

第2回不登校相談会・交流会 実施記録



TOMIYA



宮城県富谷市 保健福祉部 子育て支援課
株式会社 トライグループ

第2回 不登校相談会・交流会のようす

開催日：9月19日（金）

開催場所：富谷中央公民館

第1部 相談会

【心のケアハウス施設長として勤務された方の講話】

講師のご紹介

元逢隈小学校校長

元亘理町こどもの心のケアハウス

「さざんか教室」スーパーバイザー

齋藤 稔 氏



学校に通うことのできないこどもたちの変化を間近で見
てきた齋藤先生より、ケアハウスで実際にどう関わって
きたのか、どのような関わりがこどもたちに変化をもた
らしたのかを聞くことができました。

《講話テーマ》

- 1 登校できない児童生徒のみなさんとその保護者のみなさんへ
- 2 「こどもの心のケアハウス」はこんなところ
- 3 ケアハウスでの児童生徒への姿から見たこと
- 4 通うことができない児童生徒とのかかわり
- 5 卒業生の姿から
- 6 最後にみなさんに



1 登校できない児童生徒のみなさんとその保護者のみなさんへ

不登校と聞くとこれまでは…

学校に行くのは当たり前



と考える人が多く、なかなか理解してもらえなかったが…

現在は…

不登校は誰にでも起こること
不登校というだけで問題であると
受け取ってはならない

という考え方が
広まってきている



登校という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的にとらえて、社会的に自立することを旨とする必要がある

と法律で定められ学校以外の居場所が各地にできた



学校の他にも
居場所はいろいろ

- ・ケアハウス
- ・教育支援センターなど



例：
富谷市「ぽんぽこ広場 Tomiya」
亘理町「さざんか教室」

2 「こどもの心のケアハウス」はこんなところ

さざんか教室の1日の流れ

9:00～9:20	朝の会	
9:20～10:10	学習タイム①	
10:10～10:20	〈休憩〉	
10:20～11:00	さざんかタイム①	
11:00～11:10	〈休憩〉	
11:10～12:00	学習タイム②	
12:00～13:00	〈昼食 休憩〉	
13:00～13:20	読書タイム	
13:20～14:10	学習タイム③	
14:10～14:50	さざんかタイム②	
14:50～15:00	清掃 帰りの会	

学習タイム

基本は個別学習の形態

- ・学校からのワークドリルやプリント
- ・自分でやろうと決めている学習
- ・さざんか教室においてある教材から選んで学習



狭いスペースを好む場合や、勉強するところを見られたくない場合もあるので、広い部屋だけでなく1人で集中できるスペースもあります

さざんかタイム

興味関心や人とのかかわりを広げる活動

- ・工作や運動、音楽など興味関心のある活動
- ・パソコンや図鑑等で調べる学習
- ・トランプ、オセロ、将棋など遊びやゲーム的な活動
- ・調理や栽培などの活動に取り組む



学習タイムを避けて、さざんかタイムだけ参加することもいる
⇒大切なのは家から出てさざんか教室に来たということ

具体的な過ごし方の例

学習タイム

- ・学校の課題（ラジオ制作）⇒学校の先生に見せたいくなる
- ・化学式のカルタを作成⇒さざんかタイムで遊ぶ

さざんかタイム

- ・児童生徒の交流⇒不登校になった理由を話すこともある
- ・調理実習⇒クリスマスケーキや昼食のおにぎり作り

その他

公共交通機関を使って教室外学習に行くこともある
⇒参加するかどうかは自由



ケアハウスに通うことで…

- ・自分の計画や都合で活動に取り組むことができる
- ・自分の力に合わせ、自分のペースで活動が進められる
- ・生活リズムを整えることができる
- ・他の学校の児童生徒と友達になる
- ・学校に戻る準備にもつながる



家ではできない体験や人とののかかわりができる



3 ケアハウスでの児童生徒への姿から見たこと

ケアハウスでの過ごし方はこどもによってさまざま

- ・人とのかわりを避け、1人の活動を好んだAさん
- ・1年間ほぼ毎日通所し、次の年は学校に毎日登校したBさん
- ・3年以上の通所の中で、少しずつ変化していったCさん
- ・部活のみ登校していたDさん
- ・工作や虫採りをして過ごしていたEさん



4 通うことができない児童生徒とのかかわり

①保護者が送迎できない場合のサポート

- ・ 町バスの利用
- ・ 職員の自転車での送迎（一緒に自転車で行く）



②外に出れない子には手紙の送付、家庭訪問によるサポート

【サポートする中で伝え続けたこと】

- ・ 規則正しい生活をする
- ・ 午前（朝）から活動する
- ・ 自分で決めて行う
- ・ 曜日や時間を意識して生活する



自立の土台
となること

すぐにはこちらの思いが伝わらなくても、いずれ思い出して元気に過ごしてほしい。今は届かなくても伝え続けることが大事という思いで行っていた。

⇒不登校支援で家庭負担を軽くしたいという思い

家庭からのサポートをお願いすることは簡単だが、何か自分たちにできることはないかとケアハウスのできること、やるべきことを常に職員と話し合いながら、模索していた。

⇒サポートする側の意識を変えることも必要



5 卒業生の姿から

さざんか教室で過ごしたと卒業生が近況報告にきてくれることがあった

- ・生徒会の副会長になった
- ・アルバイトをしながら、学業に励んでいる
- ・テスト期間にはさざんか教室を利用して勉強をする
- ・大学入学や就職の報告



生き生きと活動する気力と明るさ



さざんか教室で今困っている児童生徒や
保護者の希望にも繋がっている

6 最後に皆さんに

登校できない今だからこそできることがある。

⇒まずは家から一歩外に出て、新たな体験や人との関わりを経験する

- ・自分の思いをしっかりとって
- ・自分の時間は自分で決めながら
- ・誰かの助けを受けながら



前向きに過ごしてほしい

学校との関わり方について

- ・学校からの働きかけで辛いことがあれば、学校にしっかりと伝えた方が良い
- ・登校を目的とするわけではないが、できれば学校に戻れる方法はないかと先生方も悩んでいるので、**学校と一緒に支援方法を考えていくことも大事**



相談会のようす



個人相談のようす

相談会終了後には不登校支援コーディネーターによる個別の相談支援を実施し、それぞれのこどもに合わせたアドバイス等を行いました。



第2部 交流会のようす

個人相談後には、講師の先生を含めた参加者の交流会を実施しました。保護者の悩みだけでなく、支援を実施する側としての意見を交換することで有意義な時間となりました。



アンケートの声（参加したきっかけ・感想）



連休明け学校を休むことが多くなった。
学校からのメールを見て参加した。

過去を振り返り、初心に戻ることができて
良かった。



友人との人間関係がきっかけで不登校になって
しまった。参加してみて不安な気持ちが少し楽
になった。

コロナ休暇後、学校には行きたいのに、
怖くて校舎に入れない状況で悩んでいたが、
不安を軽減することができた。



第2回目は、心のケアハウススーパーバイザーとして勤務されていた齋藤先生にお話を伺いました。
ケアハウスでは実際にこういった活動が行われているのか、その活動を通して子どもたちがどのように変化していったかについて知ることができ、登校することだけをゴールにするのではなく、1人ひとりに合わせた目標に向けてサポートしていくことが重要であり、相談できる場所や人はたくさんあるということを知ることができました。
この相談会・交流会に参加することで、1人で悩みを抱え込まずにさまざまなサポートがあることを知ってほしいというのが私たちの思いです。
今後も皆さまのご参加をお待ちしております。



今後の開催日程（予定）



10月28日（火） 13:00～17:00

会場：富ヶ丘公民館

講話：富谷ユネスコ協会

語り合いの会に参加されている保護者の方

11月15日（土） 13:00～17:00

会場：東向陽台公民館

講話：宮城学院女子大学 特別支援室コーディネーター
公認心理師 松田 るり 氏

12月13日（土） 13:00～17:00

会場：富谷中央公民館

講話：医療法人東北会病院
副院長 村田 祐二 氏

1月16日（金） 13:00～17:00

会場：東向陽台公民館

講話：尚絅学院大学 特任教授
臨床心理士 加藤 道代 氏



皆さまのご参加をお待ちしております

